

令和 7 年 6 月 10 日

倫理委員会委員長
山西 千晶 様

研究倫理審査申請書

下記の内容の研究および発表に取り組むために、倫理委員会での審査をお願いいたします。

【受付番号 R7-13 】

申 請 日	令和 7 年 6 月 10 日		
申請者	氏名	井川輝星	
	所属	リハビリテーション科	
	職名	理学療法士	
所属長	氏名	上原隆浩	
研究者	井川輝星		
発表先	学会報告	(学会名) 第 51 回日本重症心身障害学会学術集会 (開催日) 2026 年月日 (金) ～月日 (土) (発表セッション) (口演)	
	誌上発表	単 著 ・ 共 著 (出版誌名) (論文タイトル)	
研究テーマ	重心施設ボツリヌス治療における ADL 評価表を用いた効果の実感 当施設では、筋緊張亢進を有する重症心身障がい者（以下重心者）に対し侵襲的治療としてボツリヌス治療を実施している。理学療法評価においては概ね筋緊張亢進緩和や、関節可動域改善が図れている。一方、現在施術後の統一した周知や、ADL 改善における客観的な評価方法が存在せず、事前に行った入所利用者のボツリヌス治療後効果実感調査においても施術後、介助の際効果を感じると回答した職員は約 4 割弱にとどまっている。重心者においては、中枢性の筋緊張亢進や、感覚過敏を有している場合が多く、ADL 介助時の触れ方、介助法方により随意的な筋緊張亢進がしやすい特性を有している。先述した ADL 介助の際の統一した評価方法が存在しないことで施術後利用者の周知が徹底されていない事や、評価バッテリーが存在しないことで介助時意識的な関わりが出来ていない事が効果の実感等に影響していると考えられる。これを踏まえ統一した評価法を用いることで利用者、介助者共にボツリヌス治療効果を実感できる事を目的とし検証を行う。		

令和 7 年 6 月 10 日

倫理委員会委員長
山西 千晶 様

研究計画書

【受付番号 17-13】

申請日	令和 7 年 月 日	
申請者	氏名	井川輝星 
	所属	リハビリテーション科
	職名	理学療法士
所属長	氏名	上原隆浩 
研究者	井川輝星	
発表先	学会発表	(学会名) 第 51 回日本重症心身障害学会学術集会 (開催日) 2026 年月日 (金) ～月日 (土) (発表セッション) (口演)
	誌上発表	単 著 ・ 共 著 (出版誌名) (論文タイトル)
研究テーマ	重心施設ボツリヌス治療における ADL 評価表を用いた効果の実感	
研究に取り組む経緯	(○) 自発的研究 () 講演、執筆等の依頼研究 依頼機関 _____	
研究方法	モデル病棟を選定 (選定済み)。趣旨、目的を説明し、賛同を得る。 約 1 年間を通し、事前に作製した ADL 評価表を用いて介助者に評価を行って頂き、ボツリヌス治療実施前後で介助者への施術利用者の認知、ADL 介助における変化、利用者にとってボツリヌス治療は効果的と感じるか等を前後アンケートにて聴き取り調査を実施する。	
倫理的配慮	センター利用者の研究協力	☒ 有 ・ 無 * ☒ 有 (個人 / 名 ・ ☐ 不特定多数)
	研究目的・方法の説明	本人へ説明を () 行った ((名)) 本人了承済み () 本人の意思確認が困難 保護者へ書面等で説明を () 行った () 行っていない
	研究協力同意の確認	「研究発表における個人情報使用同意書」で () 確認済み (○) 未確認